

Tommy Pianica Soul Jazz Live



sound of life - 生きる力

3月11日東日本大震災。命をつなぐことに必死だった時、誰もが思いました。「音楽を楽しんでる場合じゃない」…そして月日が経ち復興へと歩み始めた頃、「音楽」の果たすかけがえのない役割にあらためて気づきました。

辛い状況を乗り越える勇気、疲れを癒してまた頑張ろうという気力を与えてくれる音楽は、喉の渇きを癒す水、空腹を満たす食べ物と変わらない。幾度にも及ぶ被災地でのトミーさんの演奏は、乾いた大地に水が染み込み、枯れかけた草が再び芽吹くように人の心に力を与えてくれました。

今この時を分かち合う

大きなホールのケーキを1人で全部食べきるには何日もかかってしまいますが、何人かの人が集まり切り分けてみんなで食べれば、おいしく、そして楽しく味わうことができます。

音楽ライブもそう。ひとりきりで聴いてはお腹いっぱいになってしまう渾身の演奏も、複数の人と場を共にし最上質な音楽空間を他の人と分かち合うことで「感動」という幸せな時間を存分に味わうことができるのです。



「ピアニカでジャズ!？」

「ピアニカって小学校でやったあのピアニカ!？」

子供の頃、誰もが親しんだ楽器なのに小学校を卒業した途端触ることもなければ聴く機会も無いのが不思議なほどです。

阪神大震災で焦土と化した神戸の街でがれきに埋もれていた一台のピアニカ(鍵盤ハーモニカ)が、当時ピアノ&トランペット奏者として活動していたトミーさんの目にとまりました。



よみがえる息吹



懐かしい音色に含まれていたのは可能性に満ちた響きと深い表現力。トミーさんの手によってピアニカという楽器の存在に新しい命が吹き込まれました。世界の舞台でも通用する楽器としての成熟度をあげるため、木枠で作られたオリジナルのピアニカは柔らかな響きを醸し出し、ジャズの域をもゆうと越える幅広い表現は「小学生のピアニカ」というイメージをがらりと覆し、誰もが魅了されていきます。

ふるさと

郷に鳴り響く

全国各地の小中学校での演奏にも精力的に取り組まれているトミーさんには、この町の地域の方や先生方のご協力のもと昨年は磐田市立福田中学校で、そして今年も磐田市立福田小学校で全校生徒さん対象に演奏して頂くことになりました。

未来を生きる若い人達が身近な楽器であるピアニカや音楽の魅力を知り、そしてのどかな海辺のこの町で上質な音楽を楽しむ文化が根付いていくことを願います。



鍵盤ハーモニカ奏者 Tommy CHO “トミー・チョウ” プロフィール

神戸市在住。4歳よりピアノ、12歳でトランペットを始め、'92年大阪音楽大学器楽科卒業後プロ活動をスタート。スペインフラメンコ界を代表するホアキン・グリロ氏、ラファエル・アマルゴ氏の両巨匠と共演、ヨーロッパ屈指の天才アコーディオン奏者アントネロ・メッシーナ氏との共演など世界の第一線で活躍するアーティストと共演を果たす。ビクターレコード所属アーティストへの楽曲提供や、サウンドプロデューサーとしての信頼も厚い。'95年阪神大震災で被災し活動休止を余儀なくされるが、瓦礫の中で廃棄された一台の鍵盤ハーモニカを見つけた事を機に鍵盤ハーモニカバンド『Tommy Pianica Soul』を結成し演奏活動を再開。



同時に自身の被災経験から「Tommy Cocoloプロジェクト」を立ち上げ、震災被災地での復興支援や震災孤児達に楽器と演奏を贈る活動も開始。'07年、アメリカで開催される世界最大の音楽見本市『サウス・バイ・サウスウエスト SXSW』の全米オーディションを勝ち抜き日本代表として2年連続出場を果たす。同年6月にはフランス随一の音楽祭「Fete de la musique」に招待され、TVに特番が組まれる。'13年テレビ朝日「キス濱ラーニング」ではジャニーズのKis-My-Ft2、よゐこ濱口と共演し鍵盤ハーモニカのスーパーテクニクの数々を番組で披露する。また日本の山林間伐材を用いた『鍵盤ハーモニカ・森林再生プロジェクト』を主催し木製のオリジナル鍵盤ハーモニカ制作に取り組む。さらに全国の小学校に於いてコンサートを開催し、鍵盤ハーモニカの音にのせて目に見える「物」と心で観る「音楽」の素晴らしさを子供達に伝える。「命」への感謝とともに心に響く希望の音色を伝える、日本を代表する鍵盤ハーモニカ奏者。